令和３年度福祉学習の手引き

ふくしを
共に学び
育ちあう。

社会福祉法人寝屋川市社会福祉協議会

もくじ

１．はじめに ・・・

はじめに　～福祉教育に取り組む上での大切な視点～

社会福祉協議会では、福祉学習のことを「福祉教育」と呼んでいます。

福祉教育とは、ふだんのくらしの中で困っていることや互いに認め合いたいことなど福祉に関することを題材として、理解を深める学習と、その学習を活かす実践の機会をつくり、住みよいまちづくりを目指していくものです。

小・中学校の総合的な学習の時間等で、子ども達が「福祉」を学ぶ事は、車イスの操作や、アイマスクを使用しての介助方法などの技術だけを学ぶという「技術習得」や「体験だけをさせる」ということではありません。「体験」は子ども達自身が福祉について「知り、考え、気づく」ことのきっかけを作るためのひと手段です。「私たちが住んでいる町で、誰もが安心して暮らしていける町づくり」を考え、「誰も大切な一員として、自分ができる事を考えていけるようになる。」（共に生きる力を育てる）ことが目的です。体験を通して、事後学習で福祉やバリアフリー、ユニバーサルデザイン等について考え、地域、ボランティア、当事者とつながりながら以下の３つの視点を意識して学習を発展させていくことが大切です。

☆日常生活にある本物の福祉にふれる

様々な人との出会いから、実際に地域にある課題を知ること。

☆大人も子どもも、共に学びあうこと

一方向に福祉を教えるのではなく、一緒に学びあう「双方向の学び」

☆地域の中での共同実践

学校だけ、地域だけではなく、さまざまなところが一緒になって考え、実践する福祉教育推進プラットフォームを作っていく。

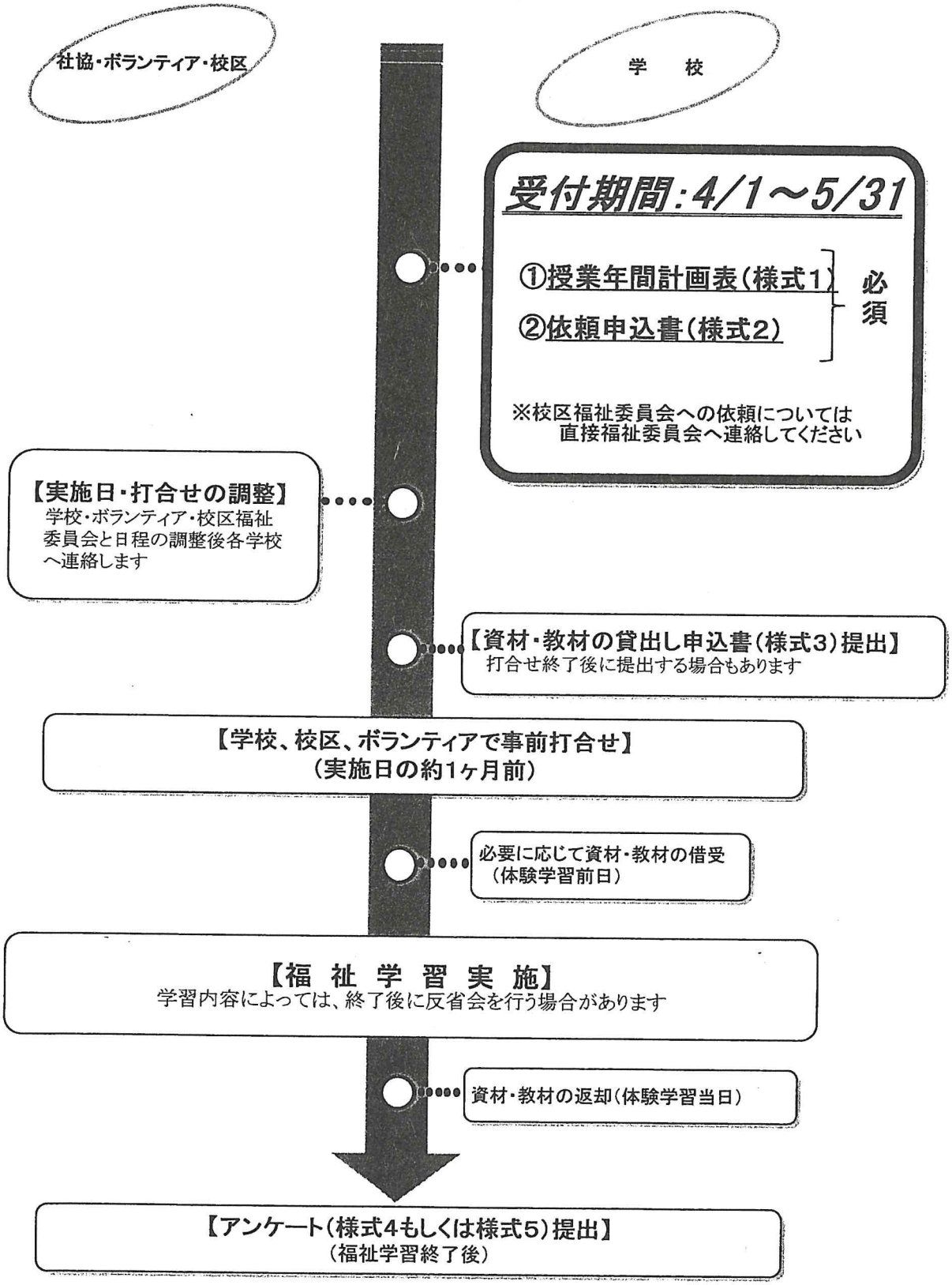
＊引用：『原田正樹/「共に生きること共に学び合うこと－福祉教育が大切にしてきたメッセージー」/大学図書出版/2009 年』

手引きに記載している学習プログラムだけでなく、他の取り組みについても実施したいことなどがありましたら、いつでもご相談ください。ふだんのくらしの中で“ひとりひとりができること”について子どもも大人もともに考え実践できるテーマを一緒に検討します。

＊参考：全国社会福祉協議会ホームページ
https://www.zcwvc.net/anatanomachideyasashisa/hirogeru/

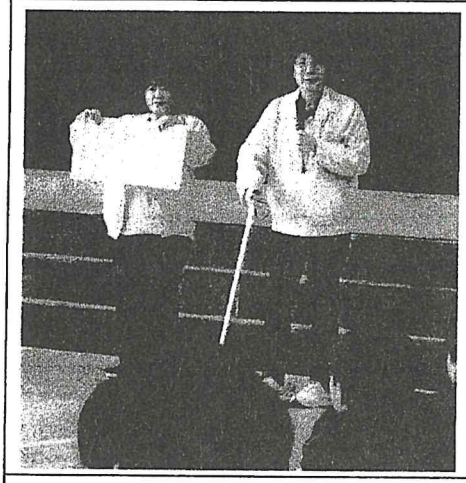
福祉学習協力依頼調整の流れ

―学習日までの手順―



福祉体験学習依頼先ボランティア一覧（依頼申込書の記載順）

	学習の種類	ボランティア	代表者
1	擬似体験等	擬似体験ボランティア うらしまさん	秋山　美江
2	点字	点字ボランティア つくしの会	平林　隆雄
3	認知症理解	キャラバン・メイト 連絡会	寝屋川市 高齢介護室
4	当事者の話	寝屋川市身体障害者福祉会 視覚部	土佐　美佳



擬似体験ボランティア
うらしまさん

“会員全員楽しく
活動することをモットーに！”

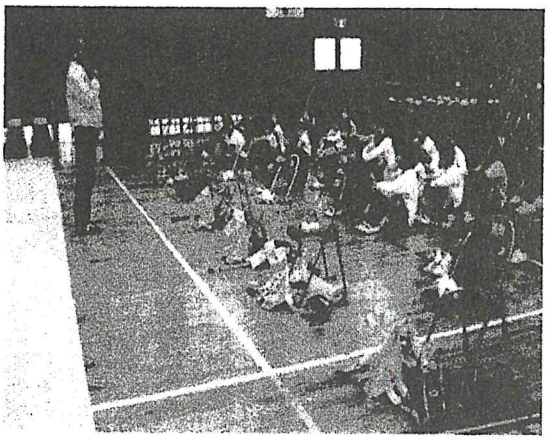
活　動　目　的

障がい者や高齢者の擬似体験を通して、体が不自由であることの不便さや不安感を実感（理解）する。さまざまな工夫でハンディキャップを乗り越えていることを知り、私たちができる協力について気づく（考える）。障がい者や高齢者の立場に立って考え、共に暮らせるまちづくり「心のバリアフリー」について考え、行動する意識を高める。障がいのある方や高齢者の不便さ、不自由さを学んで思いやりの心を育む。

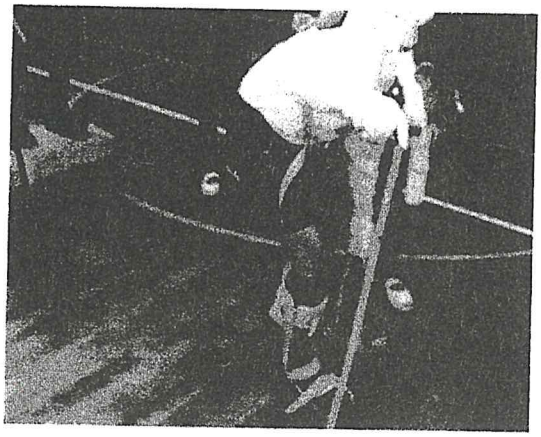
活　動　内　容

①アイマスク体験…視覚体験、介助体験、日常生活体験
②車イス体験…車イスの扱い方、自助走行、介助体験、スポーツ体験
③高齢者擬似体験…キットをつけて体の衰えや不自由さを感じてもらう体験。日常の自助具等を使う体験。

体　験　の　様　子









↑市新任職員研修

依　頼　時　の　注　意　点

（材料等の実費は学校負担でお願いします。）

- 今までに依頼を受けた実績のある学校のみ対応させていただいています。対象の学校には４月に案内を送付しています。その他学校については要相談です。
- アイマスク体験は、学期に関わらず可能な限り調整いたします。ご相談ください。
- 10～12 月はお申込みが集中しますのでご希望に添えない場合があります。
- 体験当日は体験１時間前から体育館の使用ができるよう調整をお願いします。
- 体験には、保護者の方や校区福祉委員会へのお手伝いの依頼をお願いします。

打　ち　合　わ　せ

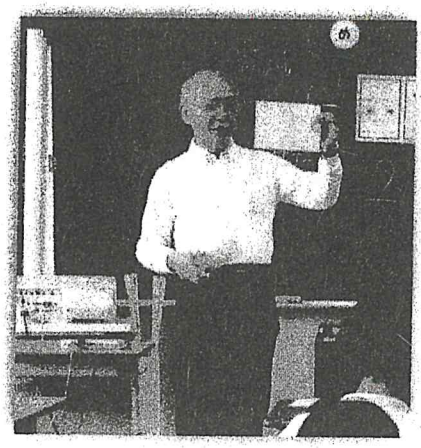
打ち合わせの時、体験当日の担当者は全員参加してください。

準　　備　　物

学習内容によって異なります。打ち合わせ時に確認をします。

昨　年　度　の　活　動　例

新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、体験学習の協力依頼に対応できない場合もありましたが、出来る範囲の創意と工夫を凝らし学習を進めてきました。
例えば、アイマスクの日常体験は密を避けるため中止してスポーツ体験（ブラインドサッカーやマラソン体験）などに切り替えて行いました。



点字ボランティア つくしの会

“一緒に点字の体験をしましょう！”

活　動　目　的

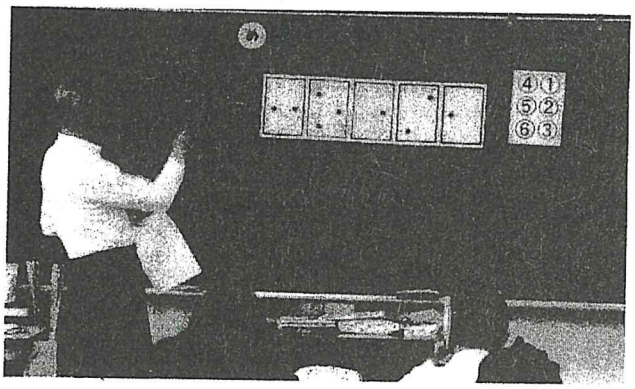
視覚障がい者にとって点字が唯一の文字であり、大切なものであるということを体験してほしいと思います。

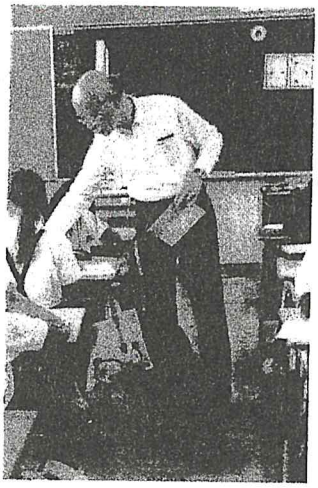
「つくしの会」は、点訳活動を通じて視覚障がい者の支援を図っています。
＊以下活動内容
・一般図書の点訳
・カレンダー、クリーンカレンダー、料理レシピの点訳
・催しもののレジュメ点訳
・福祉体験学習の実施
・寝屋川市実施の点訳講習会補助

活　動　内　容

・点字とはどういうものかの説明
・点字版（点字器）を使って点字を書く体験
・自分の名前、学校名、単語、簡単な文章を書く体験
体験後は身近に見られる点字に親しんでほしいと思っています。

体験の様子





依頼時の注意点

・対象学年は3・4年生が適しています。
・点字器の数に限りがあるので1クラスごとの実施になります。
・活動できる会員が限られているので、体験の実施は月・火・木曜日の月に1校（年間で約10校）とさせていただきます。
・2時間目以降の対応とさせていただきます。

打ち合わせ

体験実施日1か月前くらいに社会福祉協議会ボランティアセンターにて30分程度行います。当日に準備していただきたいものなどの説明をします。

準備物

□点字器（社会福祉協議会にて借用手続きが必要）
□点字用紙…打ち合わせ時に目安の用紙をお渡しします
□点字一覧表…打ち合わせ時に目安の用紙をお渡ししますので、体験に参加する人数分のコピーをお願いします

昨年度の活動例

小学校3校（国松緑丘小、楠根小、三井小）の3日間で実施。
コロナ禍においては、マスクの着用と手指消毒を行い、以前していた手を添えての指導を無くすなどの工夫と対策を講じて実施しました。



キャラバン・メイト連絡会

認知症を正しく伝える 正しく知ってもらう

～認知症になっても安心して暮らせる まちづくりのお手伝い～

活動目的

認知症の人と家族への応援者である認知症サポーターを養成し、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指しています。

活動内容

年代を問わず、あらゆる人に認知症の人への正しい理解・対応ができる知識を持ってもらうために、全国の市町村で展開されている「認知症サポーター養成講座」を開催しています。
キャラバン・メイトは当講座の講師役です。

PRしたいこと

認知症は、誰もがなり得る老いにともなう病気の一つです。様々な原因で脳の細胞が損傷を受けたり働きが悪くなることで、記憶・判断力の障害が起こり、社会生活や対人関係に支障が出ている状態をいいます。

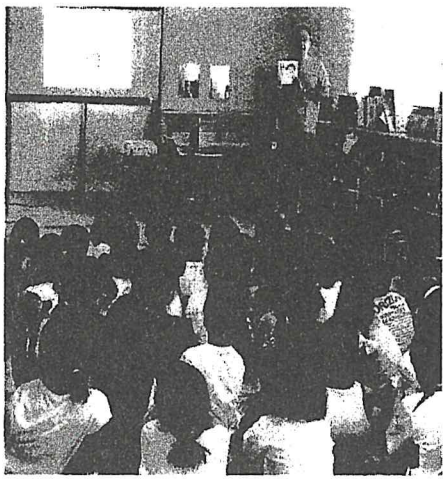
少子高齢化社会であり、子供たちは人生のどこかで必ずと言っていいほど、認知症の人と接する機会があるでしょう。学齢期に学習することで認知症を正しく理解できる、偏見を持ちにくいという効果が期待されます。

私たちキャラバン・メイトは学齢期こそ最初に「認知症」を学ぶ適時なのではないかと考えています。

体験の様子

小・中学生へ認知症にまつわる物語を通じて、解説しました。





講　義　内　容

- 認知症を正しく理解する講義
- 良くある事例を寸劇や紙芝居等で披露
- 学校に出向いての開催（1クラス単位での講習が適しています）
- リモートでの開催もOK

打　ち　合　わ　せ

依頼の流れ：
① 申し込み
② 打ち合わせ（学校へ訪問、リモート可）

準　　備　　物

（学校で開催）：PowerPointを投影できるもの　（大型テレビ、スクリーン、白板など）
（ リモート ）：各児童・生徒に配られているiPad　（Zoomアプリを使用します。）

昨年度までの活動実績

＜2020年＞
なし

＜2019年＞
第一中学校1年生

＜2018年＞
第一中学校・第六中学校1年生
夏休みに小学生に対し、親子で認知症を学ぶ講座を行いました。



寝屋川市身体障害者福祉会
視覚部
代表　土佐　美佳

“楽しく体験してまず知ってもらう！”

活　動　目　的

視覚に障がいをもつ当事者が話すことで、聞く側の生活とも重なることがあることに気づいてほしい。
（例）白杖は自転車のライトやメガネと同じ役目。障がいも工夫しながらイキイキと生活していることを知ってほしい。

活　動　内　容

・アイマスクと白杖を使っての体験
・点字の仕組みのお話
・障がい者スポーツの紹介
・ユニバーサルデザイン

体　験　の　様　子



依 頼 時 の 注 意 点

（打ち合わせや当日の移動に伴う交通費、材料等の実費は学校負担でお願いします。）
コロナ禍の現在、学校側で必ず消毒液、ゴム手袋等の準備をお願いします。
詳細については打ち合わせ時に確認させていただけたらと思います。

打 ち 合 わ せ

夏休みに必ず一度下見をします。見学後、プログラム内容を学校へファックスして、実施１か月前くらいに打ち合わせ（最終）を行います。

準　　備　　物

内容によって変わるので、実施１か月前の最終打ち合わせ時にお伝えします。

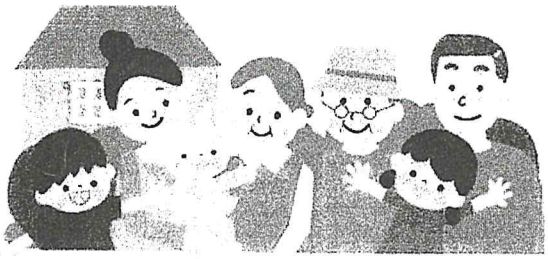
昨 年 度 の 活 動 例

※コロナ禍では、１限に１クラスずつのクラス単位での実施になります
準備（体験）は視覚部中心に行いますが、体験にはお手伝いの方が２～３名必要です。

☆アイマスクを使用したアイマスク体験
☆点字の仕組み・生活のユニバーサル

例：
＜2020 年度＞
小学校２校にて実施
視聴覚室にてアイマスク体験、ユニバーサルデザインと点字の紹介

ボランティアからのよろこびの声



子どもたちが一生懸命話を聞いてくれることが嬉しい。私たちの話を基に学校で劇をしてくれた時は「行かせてもらってよかった。」と思った。

福祉学習が終わってから、街で出会ったときに声をかけてもらえるようになったこと。

体験終了の後日、子どもたちからの感謝のお手紙をもらい、感激した。

子どもたちの純粋な眼差しが眩しく、これからも真摯に取り組んでいきたいと思った。

子どもたちの一生懸命な姿が可愛い。興味を持って積極的に質問してくれた。

子どもたちと一緒に学習することができ、ボランティアとしても成長できたように感じる。

先生の反応が大きかった時。

話を聞いてくれた子が親に話をしてくれていたこと。

担任の先生だけでなく、他の先生も一緒に聞いてくれ、非常に嬉しかった。

福祉学習依頼申込関係様式集

様　式　集

手引きp2「依頼調整の流れ」
と
一緒にご確認ください

≪様式１≫

「令和３年度福祉体験学習等の授業計画表」…5/31(月)〆切

※記入例添付

≪様式２≫

「福祉体験学習等依頼申込書」…5/31(月)〆切

※記入例添付

≪様式３≫

「資材・教材等の貸出し申込書」…随時

□資材・教材の貸出しについて
□貸出し可能な資材・教材一覧表
□使用報告書

≪様式４≫

「福祉体験学習等実施アンケート<学校用>」…学習終了後

≪様式５≫

「福祉体験学習等実施アンケート<協力ボランティア用>」

…学習終了後

寝屋川市社協　福祉体験学習担当　行
Fax　838－0166

（様式1）

【令和3年度福祉体験学習等の授業計画表】

《記入例》

学校名【　　○○小学校　　】
担当者名【　○○、○○　】電話番号【○○○-○○○-○○○○】

実施予定時期		対象学年と人数	テーマ･内容等	備　考
学期	月			
1	7月 上旬	4年3クラス 80人	視覚障害者の話	
2	9月 下旬	5年2クラス 50人	アイマスク体験	
	10月 上旬	3年3クラス 70人	点字学習	
3	1月 下旬	1年3クラス 90人	伝承遊び	

※校区福祉委員会にお願いする場合には、直接、学校から調整をお願いします。
　なお、資材･教材の貸出しの申込みが必要な場合には併せて予約等の調整も忘れずにお願いします。

（2020.3改訂）

寝屋川市社協　福祉体験学習担当　行
Fax　838－0166

（様式1）

【令和3年度福祉体験学習等の授業計画表】

学校名【　　】
担当者名【　　】電話番号【　　－　　－　　】

実施予定時期		対象学年と人数	テーマ･内容等	備　考
学期	月			

※校区福祉委員会にお願いする場合には、直接、学校から調整をお願いします。
なお、資材･教材の貸出しの申込みが必要な場合には併せて予約等の調整も忘れずにお願いします。

（2020.3改訂）

様式２

令和　　年　　月　　日

《記入例》

社会福祉法人
寝屋川市社会福祉協議会会長　様

申請団体名　●▲■　小学校
住　　所　寝屋川市○○町 1-1-1
連絡先　電　話　072-838-0400
　　ＦＡＸ　072-838-0166
担当者　○△□　※必ず記入してください

福祉体験学習等依頼申込書

標記の件について、下記のとおり福祉体験学習を依頼します。

対象者	小学生・中学生・高校生・その他（　　） （ ３ ）学年　（ ３ ）クラス（ ９２ ）人
学習の目的	アイマスク体験を通して、視覚障がいをもつ人の生活を理解し、自分たちに何ができるかを考える。
学習内容 ※手引き（p3）を参照。	希望する学習に○をつけてください。 １．擬似体験等：擬似体験ボランティア「うらしまさん」 【 高齢・障害の擬似体験　・　車イス　アイマスク 】 ２．点字：点字ボランティア「つくしの会」 ３．認知症の理解：キャラバン・メイト連絡会 ４．当事者の話：寝屋川市身体障害者福祉会　視覚部 ５．その他（　　）
学習場所	●▲■　小学校　体育館
学習日程	第１希望　10月 3日(水)10時 30分 ～ 12時30分(3･4限) 第２希望　10月 5日(金)10時 30分 ～ 12時30分(3･4限) 第３希望　10月 10日(水)10時 30分 ～ 12時30分(3･4限)
事前打ち合わせの日程（学習予定日の１ヵ月前を目途に）	第１希望　9月 12日(水)　14時00分 ～ 第２希望　9月 13日(木)　14時30分 ～ 第３希望　9月 14日(金)　15時00分 ～
その他 連絡事項	日程確定後、資材･教材貸出し申込書を提出します。

寝屋川市社協　FAX　８３８－０１６６

（2021.4 改訂）

様式２

令和　　年　　月　　日

社会福祉法人
寝屋川市社会福祉協議会会長　様

申請団体名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
住　　所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
連 絡 先 電　話 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
ＦＡＸ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
担 当 者 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

福祉体験学習等依頼申込書

標記の件について、下記のとおり福祉体験学習を依頼します。

対　象　者	小学生・中学生・高校生・その他（　　） （　　）学年　（　　）クラス（　　）人
学習の目的	
学習内容	**希望する学習に○をつけてください。** １．擬似体験等：擬似体験ボランティア「うらしまさん」 【 高齢・障害の擬似体験　・ 車イス　・ アイマスク 】 ２．点字：点字ボランティア「つくしの会」 ３．認知症の理解：キャラバン・メイト連絡会 ４．当事者の話：寝屋川市身体障害者福祉会　視覚部 ５．その他（　　）
学習場所	
学習日程	第１希望　月　日（ ）　時　分 ～　時　分（　　限） 第２希望　月　日（ ）　時　分 ～　時　分（　　限） 第３希望　月　日（ ）　時　分 ～　時　分（　　限）
事前打ち合わせの日程（学習予定日の１ヵ月前を目途に）	第１希望　月　日（ ）　時　分 ～ 第２希望　月　日（ ）　時　分 ～ 第３希望　月　日（ ）　時　分 ～
その他 連絡事項	

寝屋川市社協　FAX　８３８－０１６６

（2021.4 改訂）

資材・教材の貸出しについて

≪貸出し・返却について≫

①電話予約（仮予約）
　→福祉体験学習等の日程が決まり次第、お電話にてご予約をお願いいたします。
②貸出し申込書の提出（様式３）
　→仮予約後、１週間以内に社協事務局に持参、もしくは FAX にてご提出いただきますよう、よろしくお願いいたします。
③資材・教材の受け取り
　→使用日前日に社協事務局まで資材・教材を受け取りにお越しください。
　尚、使用日前日が土・日・祝日の場合は、休日の１日前にお越しいただきますようよろしくお願いいたします。
④資材・教材の返却
　→資材・教材をお使いになられた後は、使用日の１７時半までにご返却、及び使用報告書の提出をお願いします。

≪使用方法について≫

◇資材・教材は壊れやすいため、福祉体験学習でご利用の際は、ボランティアグループや校区福祉委員の指示に従ってご使用ください。

≪お願い≫

◇資材・教材は多くの方がご利用になられますので、原則、前日の貸出し・当日の返却とさせていただいております。なお、社協事務局の業務時間は、月曜日～金曜日（祝日除く）の９時～１７時３０分です。円滑な受け渡しにご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。
◇貸出し中に資材・教材の故障・不具合等ございましたら、ご報告願います。
◇その他ご不明な点等ございましたら、社協事務局までご連絡ください。

≪借受日と返却日が他学校と重なった場合の対応について≫

体験学習の実施日によっては、資材・教材の借受日と返却日が他学校などと同時になる場合があります。その場合、借受時間が夕方になる場合については社会福祉協議会を介さず、そのまま、次の学校等へ受取等の調整をしてもらう場合がございます。よって借受日と返却日が他学校と同時になる場合については、下記のように学校間での調整をお願いいたします。

① 借受日と返却日が重なった場合、重なることが発覚した時点で、その旨を社会福祉協議会よりお伝えします。

②社会福祉協議会より、重なることを伝えた学校等に関しては、その学校より相手方の学校等へ連絡をし、当日の受渡し方法について確認をしてください。

☆スムーズな借受の調整をしていただくため、受渡しのやり取りについては、学校間でよろしくお願いいたします。

【寝屋川市社会福祉協議会】

寝屋川市池田西町２４－５　市立池の里市民交流センター内

TEL：０７２－８３８－０４００

FAX：０７２－８３８－０１６６

新型コロナウィルス感染症対策に伴う資材・教材貸出しのルール変更について

1．資材・教材の貸出しを一部中止します。
　※詳細は別紙「貸出し可能な資材・教材一覧表」を参照

2．貸出し可能な資材･教材は、使用前と使用後に申請団体にて消毒を行ってください。

3．返却時は、資材・教材使用報告書のご提出をお願いいたします。

4．借受日と返却日が他団体と重なる場合は、社会福祉協議会を介さず団体間で運搬が行われる場合があります。その場合、資材･教材使用報告書はFAX（072-838-0166）でご提出ください。

＊＊＊＊各団体が安心して使用できるようご協力をよろしくお願いいたします＊＊＊＊

キ---リ---ト---リ

資材・教材使用報告書

申請団体	
返却者	
返却日	年　　月　　日（　　）AM/PM　　：

以下を確認した上で、チェックボックスに☑をつけてください

□資材・教材の使用前、消毒を実施しましたか
□資材・教材の使用後、消毒を実施しましたか
□資材・教材は、貸出し時と同じ状態が保たれていますか
　＊例えば、破損・汚れはないか、返却数は間違いがないか、
　など気づいた点をご記入ください

（　　）



寝屋川市社会福祉協議会　　事務局受付者（　　）

貸出し可能な資材・教材一覧表

＜申し込み方法＞

① 電話(072-838-0400)で仮予約する

⇩

② 様式3「資材教材等の貸出し申込書」を社会福祉協議会に直接持参かファックスにて提出する

⇩

③ 返却を含め当日は依頼者(団体)で運搬を行う

	物品名	在庫数		貸出し
1	車イス	20台		○
2	アイマスク	50個		×
3	擬似体験キット	一般用	Lサイズ：4体	○
			Mサイズ：4体	○
		片マヒ用	Lサイズ：2体	○
			Mサイズ：2体	○
		大人用：1体		○
		子供用：1体		○
4	点字器	40個		○
5	プロジェクター	1台		○
6	スクリーン	1台		○
7	補助犬DVD	3枚		○
8	アンプ・マイクセット	1セット		○
9	その他	アイマスク体験補助資材：1セット (白杖、点字ブロック)		○
		擬似体験補助資材：12セット (杖、重り、買い物袋、白内障ゴーグル)		×

(2021.4 改訂)

寝屋川市社協　FAX：072-838-0166

（様式３）

社会福祉法人
寝屋川市社会福祉協議会会長　様

令和　　年　　月　　日

【資材教材の貸出し申込書】

※太枠内は必ず記入してください

申請団体	
住所	
連絡先	電話：
	ファックス：
担当者	

(1)貸出し期間	貸出日：（　　年　　月　　日　　時）
	実施日：（　　年　　月　　日　　時） 使用場所：（　　）
	返却日：（　　年　　月　　日　　時）
(2)使用目的	
(3)資材教材	①車イス　　台
	②アイマスク　　使用中止
	③擬似体験キット　　体
	④点字器　　個
	⑤プロジェクター　　台
	⑥スクリーン　　台
	⑦補助犬DVD　　枚
	⑧アンプ・マイクセット　　台
	⑨その他（　　）
(4)留意事項	運搬は申請者にて実施

《供覧》	地域福祉課長	地域福祉係長	事業担当	受付者	PC入力

（2020.3改訂）

様式４

＜学校用＞

福祉体験学習等実施アンケート

寝屋川市社会福祉協議会

今後の福祉学習の改善に役立てたいと思いますので今回の福祉学習を実施してみてのご意見を下記のアンケートにご回答ください。

① 実施団体名　（　　）小・中学校（　）年（　）クラス（　　）人

② 実施日時　令和　　年　　月　　日（　）・（　　）限目

③ 実施内容　点字・高齢者等の擬似体験・車イス体験・アイマスク体験・平和学習

認知症の理解・当事者の話（　　）・その他（　　）

④ 児童・生徒の反応はいかがでしたか。

（とても良かった・良かった・普通・悪かった・とても悪かった）

具体的にどのような点が良かった（悪かった）ですか。

⑤ 学習全体の流れを見てのご意見をお聞かせください。

（とても良かった・良かった・普通・悪かった・とても悪かった）

具体的にどのような点が良かった（悪かった）ですか。

⑥ その他今回の学習を実施してみてのご意見等あればお書きください。

このアンケートはＦＡＸ（８３８－０１６６）で社会福祉協議会にご返送ください。

（2016.5 改訂）

様式５

＜協力ボランティア用＞

福祉体験学習等実施アンケート

寝屋川市社会福祉協議会

今後の福祉学習の改善に役立てたいと思いますので今回の福祉学習を実施してみてのご意見を下記のアンケートにご回答ください。

① 回答団体名　（　　）

② 実施団体名　（　　）小・中学校（　　）年（　　）クラス（　　）人

③ 実施日時　令和　　年　　月　　日（　）・（　　）限目

④ 実施内容　点字・高齢者等の擬似体験・車イス体験・アイマスク体験・平和学習

認知症理解・当事者の話（　　）・その他（　　）

⑤ 児童・生徒の反応はいかがでしたか。

（とても良かった・良かった・普通・悪かった・とても悪かった）

具体的にどのような点が良かった（悪かった）ですか。

⑥ 学習全体の流れを見てのご意見をお聞かせください。

（とても良かった・良かった・普通・悪かった・とても悪かった）

具体的にどのような点が良かった（悪かった）ですか。

⑦ その他今回の学習を実施してみてのご意見等あればお書きください。

このアンケートはＦＡＸ（８３８－０１６６）で社会福祉協議会にご返送ください。

（2016.5 改訂）

Q & A

～よくある質問～

Q1. ボランティアと直接連絡を取りたいので連絡先を教えてください

A．ボランティアへなにか用事がある場合は、社会福祉協議会（072-838-0400）へ連絡してください。社協からボランティアへ用件をお伝えします。

Q2. ボランティアは当日どうやって学校に来られるのですか？

A．基本的には、ボランティア自身で学校へ出向いていただいています。ただし、ボランティアの中には、外出をするのにさまざまな支援が必要な方もいらっしゃいます。打ち合わせ時に、ボランティアとよく確認をしてください。

Q3. ボランティアに謝礼などは必要ですか？

A．ボランティア活動自体は無償です。ただし、材料費や交通費など実費の費用が発生する場合は、学校・団体でご負担いただくようご理解ください。

Q4. 依頼申込書、授業計画表、資材教材等の貸出し申込書をパソコンで入力できるデータはありますか？

A. 社会福祉協議会のホームページにワードとエクセルのデータをおいています。ダウンロードしご利用ください。(URL:http://www.neyagawa-shakyo.or.jp)

Q5. 貸出教材を運ぶ車を貸してください。

A. 運搬車両の貸出はしておりません。各学校で車をご用意いただきますよう、お願いいたします。

Q6. 貸出教材が壊れてしまった！壊れていた！

A. 速やかにご報告いただきますようお願いいたします。修理等の対応を行います。

Q7. 福祉学習支援のボランティアと校区福祉委員会の違いはなんですか？

A. 福祉学習支援のボランティアは、本会ボランティアセンターに登録するボランティアグループです。校区福祉委員会は、地域の福祉を増進することを目的に、様々な活動に取り組んでおり、地元の小学校区に住む福祉委員と校区ボランティア部会員です。

福祉学習を進める際は、地元の校区福祉委員会と福祉学習支援ボランティアと連携して取り組んでいただきますようよろしくお願いいたします。

2020年10月8日

全国福祉教育委員会、全社協作成
「あなたのまちでやさしさをひろげるために」の使用について

全国社会福祉協議会
全国ボランティア・市民活動振興センター

１．スライドの編集・加工を行う場合について

対象年齢に合わせて編集を行う場合は、編集を行ったスライドを全社協までお送りください。全社協で委員会で作成した趣旨と齟齬がないかなどについて確認させていただき、連絡いたします。

また、新しく作成いただいたスライド（編集・作成いただいたスライド）は、原則として、福祉教育推進員等の推進者が参考とすることについて了解いただくことを条件とさせていただきますので、ご了解ください。

２．編集・加工を禁止するスライドについて

スライド番号３、１６、（日本赤十字社のガイドより引用）１９、（国立ハンセン病資料館の資料より引用）のスライドについては、編集・加工等は、編集・加工などは行わないでください。

３．日本赤十字社の資料（ガイドとワークブック）について

日本赤十字社の資料を引用して使用する場合は、引用方法、使用方法などをふくめて、日本赤十字社に確認してください。

４．貴社協等でオリジナルの教材を作成される場合について

「あなたのまちでやさしさをひろげるために」を参考として、貴社協等でオリジナルの教材を作成した場合は、「全社協福祉教育推進委員会「あなたのまちでやさしさをひろげるために」を参考として作成」等の標記をお願いします。

全社協版『あなたのまちでやさしさをひろげるために』の考え方

日赤が作成した『新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう』は、「病気」－「不安」－「差別」という関係を構造的に認識し、その関連における「負のスパイラル」を断ち切るというメッセージは、とても重要な視点であり、大変参考になります。

そのことを基本にした上で、
全社協としては、福祉教育の観点から、この「3つの顔」を次のように転換していきたいと考えました。

① 「病気」－「不安」－「差別」という、マイナスの「3つの顔」を、これからプラスの顔に変えていく。今の課題を、ストレングス（つよみ）に変えていくという発想です。
それは「**健康**」－「**安心**」－「**共生**」という新しい「3つの顔」です。
※健康とは、WHO憲章「健康とはただ疾病や傷害がないだけでなく，肉体的，精神的ならびに社会的に完全に快適な状態であること」

② そのときに「負のスパイラル」も、「やさしさの循環」にしていく必要があります。

「健康」	→	「安心」	**思いやる**	自分のことだけではなく、他者のことを思いやること。
「安心」	→	「共生」	**つながる**	閉じこもってしまうのではなく、人とつながっていこうとする。
「共生」	→	「健康」	**支えあう**	自分にできること、相手に助けてもらうこと。お互いに支えあうことで、みんなの健康を創り出します。

③ この3つの力、「思いやる力」、「つながる力」、「支えあう力」を育むことが、コロナ禍で、「不安」を軽減し「嫌悪、偏見、差別」を生まないことにつながります。また、この3つの力を育むことが、「地域共生社会」の実現にむけた意識を形成していきます。

④ そのなかでは、福祉教育として、個人だけではなく社会に目を向け、コロナ禍で生じている偏見や差別について、より深める必要があります。そこで感染症の事柄から、「ハンセン病問題」を取り上げています。

⑤ 全社協版の福祉教育では、
（1）「健康」、「安心」、「共生」という顔に変えていくこと。
（2）そのために「思いやる」、「つながる」、「支えあう」という3つの力を育むこと。
（3）3つの力によって、3つの顔が創り出され、それが「やさしさの循環」としてひろがる地域社会を意図しています。

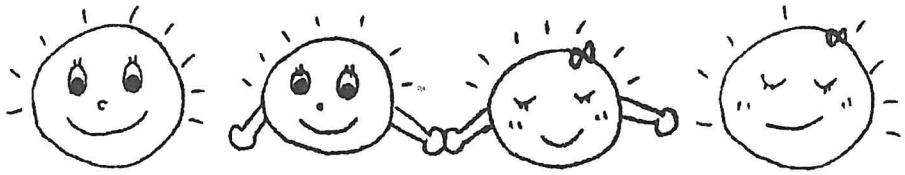
⑥ このプログラムの対象は、中学生をイメージしています。小学生、あるいは大人用には発達段階などを意識して、工夫してください。

⑦ コロナ禍で福祉教育を実施することは、とても条件が難しいです。そこで「50分」の場合、「100分」の場合など複数の学習指導案（プログラム）を示しました。
また全体をひとつの単元（カリキュラム）として、単元計画も示しています。
ただし、これらはあくまでも例示です。

⑧ 実践にあたっては、それぞれの地域、学校・子どものニーズや状況を踏まえて、地域の関係者の話を加えるなど、リアリティを大切にした展開が大切です。

あなたのまちで
やさしさをひろげるために

～思いやり・つながり・支えあう～



新型コロナウイルスから考えてみよう

はじめに

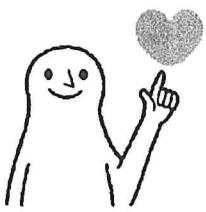
考えてみよう

新型コロナウイルス感染症が広がったことで、あなたの気持ちや生活で変わったことはありますか？

「家の中で一人でいることが増えた」

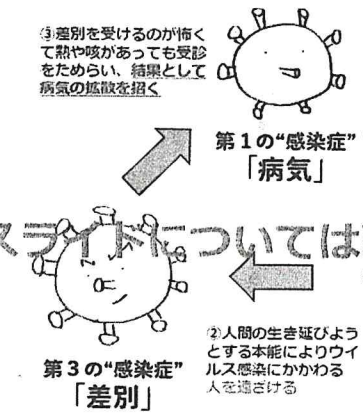
「ストレスが多くなった感じがする」

「学校で部活動ができなくなった」



日本赤十字社のガイドでは、新型コロナウイルスの怖さについて「病気」「不安」「差別」の3つの顔がつながり生活に影響を及ぼすとしています。

3つの“感染症”はどうつながっているの？



この“感染症”の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が更なる病気の拡散につながることです。

このスライドについては改変しないでください

引用：日本赤十字社『新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～』

“新しい顔”にかえていこう！

私たちの生活に影響を与えている新型コロナウイルスの3つの顔をどのように変えていけばよいのでしょうか。

第1の“感染症”「病気」 → 第1の“顔”「健康」



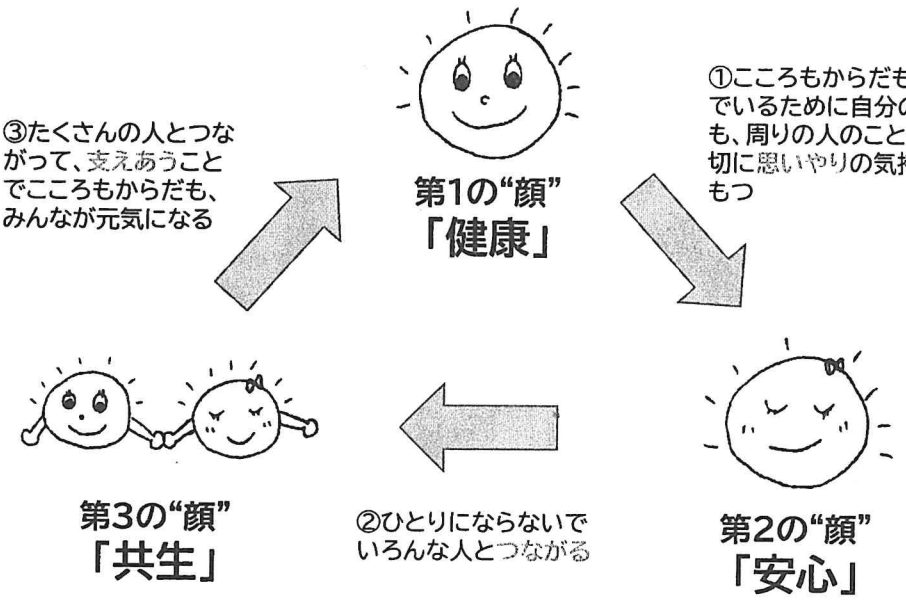
第2の“感染症”「不安」 → 第2の“顔”「安心」



第3の“感染症”「差別」 → 第3の“顔”「共生」



“新しい顔”はどんな関係にあるの？



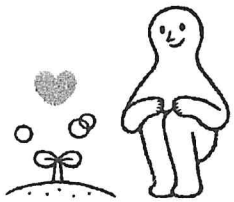
“新しい顔”に変えるために、私たちはどのようなことができるでしょうか？



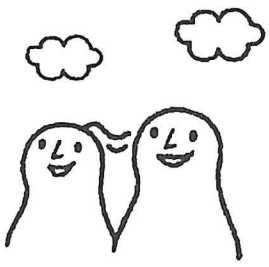
「手洗い、うがい」
「三密を避ける」
「正しい情報や知識を知る」
など、自分が新型コロナウイルスに
感染しないよう、また周りの人たち
のことも考えた行動をしましょう。



「一人ひとりが心がけることで
「健康」になっていきます



あなたの周りの人が、どんな気持ちで
過ごしているのかを考えることは
思いやりの力
を高めることにつながります。
相手の話をきいたり、一緒に寄りそう
こと、相手の立場・気持ちを想像する
ことも思いやりの力を強めます。



思いやることで
「安心」が生まれます



思いやりの力を高める



あなたの気持ちを考えてみましょう

もしあなたが感染してしまったとき、
周りの人に言われたらかなしい言葉は
なんでしょうか？
反対に、言ってもらったらうれしい言葉
はなんでしょうか？

かなしい言葉

うれしい言葉



思いやりの力を高める



新型コロナウイルスに感染してしまった
患者さんや家族、患者さんを支えている
医療や福祉の現場の人の気持ちを考えて
みましょう。

患者さんの気持ち

患者さんの家族の気持ち

患者さんを支えている医療・福祉現場の人の気持ち

つながる力を高める

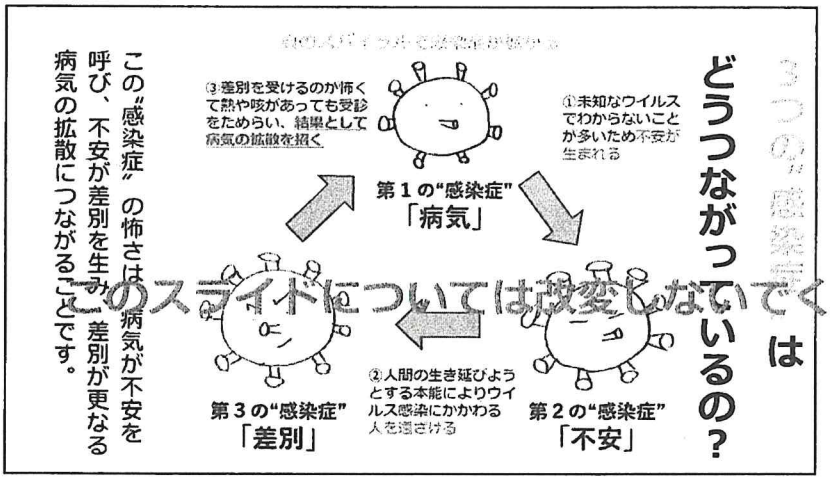
毎朝登校時にいつもあいさつを交わしていたおばあさん。
新型コロナウイルスの感染が広がってから、見かけなくなってしまいました。
このおばあさんのことが心配です。

【おばあさんが外出できなくなった原因は、どんなことが考えられますか】

【おばあさんと連絡をとるために、どんな工夫が考えられますか】

【地域のなかで、他に心配な人たちはいますか】

日本赤十字社のガイドでは、「病気が不安を呼び、不安は差別を生む」としています。
実際に地域のなかでは、偏見や差別が起こっています。
みなさんの周りで心配なことはありませんか。



この"感染症"の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が更なる病気の拡散につながることです。

このスライドについては改変しないでください

引用：日本赤十字社『新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～』

「差別」の顔を見つめる



新型コロナウイルスの感染が広がったことで、人と人のつながりが弱くなりました。

いろいろな場面で、不安や恐れから、自分のことだけを考え、知らないうちに、あの人はこうだと勝手に決めつける「偏見」がうまれます。

そのことが悪いことだとして一方的に傷つけてしまう「差別」につながっていきます。

ハンセン病問題から学ぶ



日本では、今から約90年前「ハンセン病」という感染症の患者への理不尽な偏見や差別が起こりました。

ハンセン病問題から、現在の私たちが学ぶべき教訓がたくさんあります。

ハンセン病問題から学ぶ

今からおよそ90年前（1930年頃）、日本は全てのハンセン病の患者（かんじゃ）さんを療養所（りょうようじょ）へ閉じ込めてしまうことにしました（絶対に出せたい）隔離（かくり）。いったん療養所に入れられた患者さんは、死ぬまで外に出られず、家にも帰れないようにしたのです（終生（しゅうせい）隔離（かくり））。

患者さんを療養所に閉じ込めたのは、ハンセン病が人から人へうつる病気だと分かったため。他の人にうつさないようにすることが目的でした。でも本当は、そんなにうつりやすい病気ではありませんでした（1947年には治療（ちりょう）薬（やく）が登場）。間違った知識やうわさが広まり、近所に感染が知られると、本人だけでなく家族も偏見や差別の対象にされました。

【ハンセン病とは】
「らい菌（きん）」に感染することで起こる病気。発病すると手足などの神経が麻ひしたり、皮ふに病的変化が起こる。

子どもがハンセン病にかかると「もう学校へ来なくてよい。」と言われたり、これまで仲の良かった友達が突然遊んでくれなくなったりしました。子どもであっても親や兄弟と別れ、ひとりで一生療養所に入所しなければなりませんでした。

弟が学校から泣きながらもどってきたので「どうしたの。」と聞くと、泣き声で、「学校で遊んでいると『お前の兄さんは手が曲がっとるげなね、お前とはもう遊ばんけんあっちへゆけ。』と同級生に言われたのでもどってきた。」というのでした。ああ、その時はぼくもぎょっとしました。なぜこんな小さい弟にまでつらい思いをさせなければならないのか、それはぼくが生きているからではなかろうか。そうだ、もう死ぬより仕方がないのでした。
（檜垣政市「生死と病気」より）

【参考】・「ハンセン病の向こう側」厚生労働省
・「小学生のみなさんへ…かんたん解説」国立ハンセン病資料館
・「ちぎられた心を抱いて」国立ハンセン病資料館

このスライドについては改変しないでください

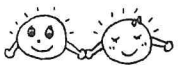
ハンセン病問題から学ぶ

「手が曲がっとるげなね、
もうお前とは遊ばん。
あっちへゆけ。」



この言葉には、嫌悪・偏見・差別の気持ちが入り混じっています。
なぜこんな気持ちになってしまうのでしょうか？

ハンセン病問題から学ぶ



過去のハンセン病問題から私たちが
学ぶ教訓はどんなことでしょうか？
考えてみましょう。

支えあう力を高める



「偏見」や「差別」を生み出さないためには、
いろいろな人のことを「思いやる」こと。
その人たちと「つながろう」とすること。
そのことによって、少し勇気が出てきます。

ひとりぼっちにならない。
ひとりぼっちにさせない。

支えあう力を
高めてみましょう。



支えあう力を高める



あなたの友達のお父さんは老人ホームで、働いています。
別の友達がその子に、「新型コロナウイルスにかかってるんじゃないの」と言いました。
あなたはどういう気持ちになりますか？

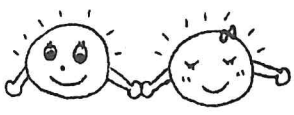
どのように対応したらいいと思いますか？

自分の周りの人とつながることで、
私たちは一人ではないことを実感します。

自分のことだけを考え、不安や恐れから
誰かを差別するのではなく、
ひとりぼっちにならないで
誰かと一緒に生きること。

支えあう力

が健康につながります。



支えあう力を高める



「いろいろな立場の人の
様子や意見を知ろう」

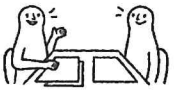
新型コロナウイルスの影響で生活はどう変わった？
どんな気持ちだった？

がんばったこと

困ったこと・苦労したこと

うれしかったこと

★医療現場の方や福祉関係者、感染した人や
家族に実際に話を聞いてみてもいいですね



相手を差別をするのではなく
相手を
思いやり
つながり
支えあうことで

「健康」「安心」「共生」へ
うまれかわり、
やさしさが広がっていきます

「健康」とは、単に病気や虚弱でないというだけでなく、肉体的・精神的・社会的に調和のとれた良い状態にあることをいいます。

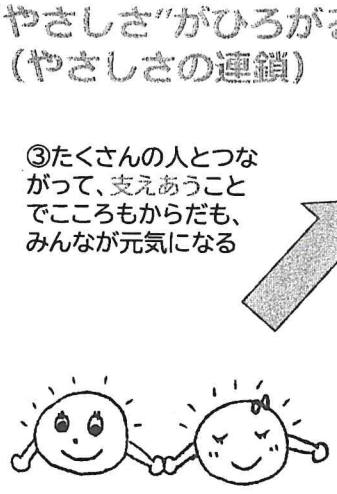
「支え合う」こと(共生)は、地域社会を「健康」にし、人のつながりを生みだします。

その力は、一人ひとりの健康を高めるだけでなく、地域全体を元気にし、みんなを健康にすることにつながります。

「共生」によって、みんなの「健康」が生まれます。

"やさしさ"をひろげていこう

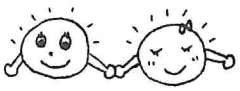
"やさしさ"がひろがる
(やさしさの連鎖)



やさしさをひろげていくために



あなたの周りにいる人は、どんな気持ちで毎日を過ごしているでしょうか。



- あなたの家族やお友達
- 一人で暮らしているお年寄り
- 小さな子どものいる両親
- 多くのお客さんと接するお仕事をしている人
- 福祉施設や病院で働いている人
- 治療のために入院している人



私たちのなかにやさしさを広げることがやさしいまちをつくることにつながります。

あなたができることはなんですか？

思いやりの力をつけるためにはどうすればいいの？



第1の“顔”
「健康」



第2の“顔”
「安心」

あなたの考え

つながる力をつけるためにはどうすればいいの？



第2の“顔”
「安心」



第3の“顔”
「共生」

あなたの考え

支えあう力をつけるために
はどうすればいいの？



第3の“顔”
「共生」



第1の“顔”
「健康」

あなたの考え

このワークシートは日本赤十字社による
『新型コロナウイルスの３つの顔を知ろう』をもとに、
全国社会福祉協議会が制作しました。

【福祉教育推進委員会】（敬称略）
原田正樹　（日本福祉大学　副学長）
中島　修　（文京学院大学　教授）
福澤信輔　（長野県社会福祉協議会　まちづくりボランティアセンター主任）
野川すみれ（愛知県　名古屋市港区社会福祉協議会　事務局次長）
安河内達　（福岡県　社会福祉法人三活会　緑の里　施設長）
坂本晃一　（東京都　墨田区立菊川小学校　主任教諭）
牧野郁子　（埼玉県　鶴ヶ島市社会福祉協議会）
櫻田賢治　（宮崎県　都城市社会福祉協議会　地域福祉課長）
梶野光信　（東京都　教育庁　地域教育支援部　主任社会教育主事）
小林美保　（文部科学省　総合教育政策局障害者学習支援推進室長）
玉置隼人　（厚生労働省　社会・援護局　地域福祉課　地域福祉専門官）

全社協版 コロナ禍における福祉教育プログラム例

全社協版『あなたのまちでやさしさをひろげるために～思いやり・つながり・支えあう～』ワークシートを活用した授業プログラム例を紹介します。このプログラム例を参考にして、各学校の状況や学習希望内容に応じて活用してください。

※全社協版ワークシートやプログラムはコロナ禍の福祉教育教材の一つの参考です。このワークシートやプログラム例を全国統一的に広げるものではありません。

授業のねらい

コロナ禍において生徒たちを取り巻く環境は大きく変わっている。感染防止をすすめるなかで孤立化が進んでしまうこと、また過度な不安や防衛の意識が、排除や差別を生んでいることは見過ごすことができない。コロナ禍だからこそ、生徒たちが福祉教育を通して、自らの生活を含めた社会と向き合い、人権意識を高め、共生にむけた態度を、より主体的・対話的で深い学びによって形成する。

教材

・日本赤十字社『新型コロナウイルスの３つの顔を知ろう』
・全社協版『あなたのまちでやさしさをひろげるために～思いやり・つながり・支えあう～』ワークシート

対象

・中学１年生

授業プログラム例

下記の所要時数の違う５つのプログラム例を作成しています。コロナ禍の中で学校が確保できる授業時数等に応じて選択し、参考にしてください。

（なお、下記プログラムは日赤の「新型コロナウイルスの３つの顔を知ろう！」の教材を学習後に、さらに福祉教育的視点で深めるプログラムになっています。）

A	１限（ 50分）プログラム	ワークシートを中心に行う
B	２限（100分）プログラム	ワークシートとゲストによる話題提供（つながる力）を行う
C	２限（100分）プログラム	ワークシートとゲストによる話題提供（支えあう力）を行う
D	２限（100分）プログラム	ワークシートを中心にハンセン病への差別の教訓を考える
E	５限（250分）プログラム	１つ１つの「顔」を詳しく取り上げる場合

※Eについては単元（５時限プログラム）のため、「単元計画（各授業の学習内容を示したもの）」と「本時の指導計画（５時限の中で、最も学びを深めたい授業の指導計画。本単元でいえば、３時限目にあたる。）」を作成している。

※いずれもスライド31～33は、事後学習として活用可能。

A　1限（50分）プログラム ～ワークシートを中心に行う～

本授業のねらい

「新型コロナウイルスの３つの顔」として、それぞれ病気（医学的側面）・不安（心理的側面）・差別（社会的側面）について理解をしたうえで、本授業では、この３つの顔を「新しい顔」に変えていく、つまり「健康・安心・共生」に転換していくために必要な、「思いやり、つながり、支えあい」について、生徒自身の体験や考え方から洞察し、そのことを主体的に身につけていけるよう促したい。

柱	時間 (目安)	スライド	ねらい・内容	評価の視点
①導入	4分	１・２ ３・４ ５	・新型コロナの問題を自分にひきつけて考える ・「３つの顔」を復習する ・３つの顔を新しい顔にすることを理解する	「３つの顔」と負のスパイラルについて復習できたか。 本時のねらいを理解できたか。
②３つの新しい顔にするには 第１の顔「健康」	2分	６・７	・自ら感染対策がきちんと励行できているか、ふりかえる。	生徒自らが、日常の感染対策について振り返り、その必要を理解できたか。
③第２の顔「安心」になるために**思いやりの力**を高める	１３分	８・９ １０	・自分ごととして想像する ・他者の気持ちを想像する ・自分のことだけではなく他者のことを思いやることを理解する	生徒自らが、他者について想像してみることができたか。そのことによって、立場をかえて推察してみることができたか。
④第３の顔「共生」になるために**つながる力**を高める	１３分	１１・１２ １５	・閉じこもってしまうのではなく、人とつながることの大切さを理解する	人とつながることについて具体的なイメージを持つことができたか。
⑤**支えあう力**をつけることで「健康」の顔がさらに元気になる	１３分	１６・１７ ２２・２３ ２４	・差別が育つスパイラルを理解する ・身近な差別を考える ・差別するのではなく、支えあうということを理解する	偏見、差別が起こってしまうプロセスが理解できたか。そのうえで、差別にならないように生徒が自らのこととしてとらえられたか。
⑥まとめ	5分	２６～３０	・新しい３つの顔に変えていくために３つの力を育むことを再度確認する	本時のねらいが理解できたか。またコロナ禍での過ごし方について態度を変容させてみようという意欲が生じたか。

B　2限（100分）プログラム ～ワークシートとゲストによる話題提供（つながる力）～

本授業のねらい

「新型コロナウイルスの３つの顔」として、それぞれ病気（医学的側面）・不安（心理的側面）・差別（社会的側面）について理解をしたうえで、本授業では、この３つの顔を「新しい顔」に変えていく、つまり「健康・安心・共生」に転換していくために必要な、「思いやり、つながり、支えあい」について、生徒自身の体験や考え方から洞察し、地域のゲストから実際の様子や気持ちを聞き取り、より関心を持ち共感を促し、地域にむけて主体的な行動につながるよう促したい。

B　実際に地域で暮らしている人から話を聞く展開（つながる力）

柱	時間 (目安)	スライド	ねらい・内容	評価の視点
①導入	4分	1・2 3・4 5	・新型コロナの問題を自分にひきつけて考える ・「3つの顔」を復習する ・3つの顔を新しい顔にすることを理解する	「3つの顔」と負のスパイラルについて復習できたか。 本時のねらいを理解できたか。
②3つの新しい顔にするには 第1の顔「健康」	2分	6・7	自ら感染対策がきちんと励行できているか、ふりかえる。	生徒自らが、日常の感染対策について振り返り、その必要を理解できたか。
③第2の顔「安心」になるために**思いやりの力**を高める	13分	8・9 10	・自分ごととして想像する ・他者の気持ちを想像する ・自分のことだけではなく他者のことを思いやることを理解する	生徒自らが、他者について想像してみることができたか。そのことによって、立場をかえて推察してみることができたか。
④第3の顔「共生」になるために**つながる力**を高める	13分	11 12	・閉じこもってしまうのではなく、人とつながることの大切さを理解する	人とつながることについて具体的なイメージを持つことができたか。
	50分	13 14	・Webオンライン、ビデオレターなどを活用し、実際に<u>地域の人</u>から話を聞く。	現実に、地域で何が起こっているのか、ふだん報道されない現場の方の語りを受けとめられたか。そのことを通して考察ができたか。
⑤**支えあう力**をつけることで「健康」の顔がさらに元気になる	13分	16・17 22・2 324・26 27	・差別が育つスパイラルを理解する ・身近な差別を考える ・差別するのではなく、支えあうということを理解する	偏見、差別が起こってしまうプロセスが理解できたか。そのうえで、差別にならないように生徒が自らのこととしてとらえられたか。

⑥まとめ	5分	28～30	・新しい3つの顔に変えていくために3つの力を育むことを再度確認する	本時のねらいが理解できたか。またコロナ禍での過ごし方について態度を変容させてみようという意欲が生じたか。

C　2限（100分）プログラム ～ワークシートとゲストによる話題提供（支えあう力）～

本授業のねらい

Bと同様

柱	時間 (目安)	スライド	ねらい・内容	評価の視点
①導入	4分	1・2 3・4 5	・新型コロナの問題を自分にひきつけて考える ・「3つの顔」を復習する ・3つの顔を新しい3つの顔にすることを理解する	「3つの顔」と負のスパイラルについて復習できたか。 本時のねらいを理解できたか。
②3つの新しい顔にするには 第1の顔「健康」	2分	6・7	自ら感染対策がきちんと励行できているか、ふりかえる。	生徒自らが、日常の感染対策について振り返り、その必要を理解できたか。
③第2の顔「安心」になるために**思いやりの力**を高める	13分	8・9 10	・自分ごととして想像する ・他者の気持ちを想像する ・自分のことだけではなく他者のことを思いやることを理解する	生徒自らが、他者について想像してみることができたか。そのことによって、立場をかえて推察してみることができたか。
④第3の顔「共生」になるために**つながる力**を高める	13分	11 12 15	・閉じこもってしまうのではなく、人とつながることの大切さを理解する	人とつながることについて具体的なイメージを持つことができたか。
⑤**支えあう力**をつけることで「健康」の顔がさらに元気になる	13分	16・17 22・23 24	・差別が育つスパイラルを理解する ・身近な差別を考える ・差別するのではなく、支えあうということを理解する	嫌悪や偏見、差別が起こってしまうプロセスが理解できたか。そのうえで、差別にならないように生徒が自らのこととしてとらえられたか。
	50分	25	・Webオンライン、ビデオレターなどを活用し、実際に**医療や福祉の関係者**から話を聞く。	現実に、地域で何が起こっているのか、ふだん報道されない現場の方の語りを受けとめられたか。そのことを通して考察ができたか。
⑥まとめ	5分	26～30	・新しい3つの顔に変えていくために3つの力を育むことを再度確認する	本時のねらいが理解できたか。またコロナ禍での過ごし方について態度を変容させてみようという意欲が生じたか

D　２限（100分）プログラム ～ワークシートを中心にハンセン病への差別の教訓を考える～

本授業のねらい

「新型コロナウイルスの３つの顔」として、それぞれ病気（医学的側面）・不安（心理的側面）・差別（社会的側面）について理解をしたうえで、本授業では、「３つの顔」を「新しい顔」に変えていく、つまり「健康・安心・共生」に転換していくために必要な、「思いやり、つながり、支えあい」について、生徒自身の体験や考え方から洞察し、過去のハンセン病の歴史と差別の事実に学びながら、より関心を持ち共感を促し、地域にむけて主体的な行動につながるよう促したい。

D　ハンセン病へと展開

柱	時間 (目安)	スライド	ねらい・内容	評価の視点
①導入	4分	１・２ ３・４ ５	・新型コロナの問題を自分にひきつけて考える ・「３つの顔」を復習する ・３つの顔を新しい３つの顔にすることを理解する	「３つの顔」と負のスパイラルについて復習できたか。 本時のねらいを理解できたか。
②３つの新しい顔にするには 第１の顔「健康」	2分	６・７	自ら感染対策がきちんと励行できているか、ふりかえる。	生徒自らが、日常の感染対策について振り返り、その必要を理解できたか。
③第２の顔「安心」になるために**思いやりの力**を高める	１３分	８・９ １０	・自分ごととして想像する ・他者の気持ちを想像する ・自分のことだけではなく他者のことを思いやることを理解する	生徒自らが、他者について想像してみることができたか。そのことによって、立場をかえて推察してみることができたか。
④第３の顔「共生」になるために**つながる力**を高める	１３分	１１ １２ １５	・閉じこもってしまうのではなく、人とつながることの大切さを理解する	人とつながることについて具体的なイメージを持つことができたか。
⑤**支えあう力**をつけることで「健康」の顔がさらに元気になる	５０分	１６・１７ １８～２１	・差別が育つスパイラルを理解する ・ハンセン病の問題の事実を知る。 ・当事者の手記から、自分のこととして考えてみる.	ハンセン病の歴史と、患者や家族への差別について知ることができたか。 手記から自分のこととして考えることができたか。
	１３分	２２～２４ ２６	・身近な差別を考える ・差別するのではなく、支えあうということを理解する	偏見、差別が起こってしまうプロセスが理解できたか。そのうえで、差別にならないように生徒が自らのこととしてとらえられたか。

⑥まとめ	5分	27～30	・新しい3つの顔に変えていくために3つの力を育むことを再度確認する	本時のねらいが理解できたか。またコロナ禍での過ごし方について態度を変容させてみようという意欲が生じたか。

E　5限（250分）プログラム　～1つ1つの「顔」を詳しく取り上げる場合

1　単元計画（指導計画：全5時限）

時限	活動名	学習内容	スライド
1	【導入】 新型コロナウイルスの「3つの顔」を知ろう	① 子ども自身がコロナによる生活の変化を振り返る（シート） ② 「3つの感染症のつながり」「3つの感染症を新しい顔に変えていこう」」「3つの新しい顔の関係」のサイクルを知る ③ 単元のねらい（3つの感染症を新しい顔に変えるため、どんなことができるか）を理解する。 ④ 第1の顔「健康」について考える。	2 3～5 6 7
2	【展開①】 第2の顔「安心」になるために～思いやりの力を高める～	① 既習「3つのサイクル」を振り返り、本時の段階を確認する。 ② 自分が言われて嬉しい言葉、悲しい言葉を考える（シート） ③ 患者、家族、医療・福祉従事者の気持ちを考える（シート） ④ 大変な状況にある人の気持ちに重ねて「思いやり」の大切さを考え、本時の感想を書く。	3～5 9 10 8
3★ 本時	【展開②】 第3の顔「共生」になるために～つながる力を高める～	① 既習「3つのサイクル」を振り返り、本時の段階を確認する。 ② 自分が独りぼっちの場合どうするか考える（シート） ③ 見かけなくなった地域のおばあさんについて考える（シート）（原因⇒つながる工夫⇒その他地域で心配な人） ④ 地域の中でつながる工夫と効果を考え、伝え合う ⑤ 教師が「コロナ禍でもつながった人の手記」を紹介し、まとめと本時の感想を書く。	3～5 12 16 11
4	【展開③】 第1の顔「健康」をさらに元気にするために～支え合う力を高める～	① 既習「3つのサイクル」を振り返り、本時の段階を確認する。 ② 地域の「支えあう力」が人を元気にすることを知る。 ③ コロナ禍でも人とつながり元気になった当事者（障がい者、高齢者等）の話を聞く（オンライン使用：社協が調整） ④ まとめ・本時の感想を書く	3～5 22 25 27
5	【まとめ】 やさしさを広げていくために～差別の顔を見つめる	① 「負のスパイラル」の危険性を再確認する ② 老人ホームで働く父親をもつ子が友達に言われた一言について考える（偏見差別）（シート） ③ 小グループで考えを伝え合う（誰もが持つ差別につながる心に気付く）⇒全体発表 ④ 負のスパイラルを断ち切り、やさしさを広げる重要性を理解する ⑤ 自分ができることを考え、感想を書く	16、17 23 26～29

2　本時の指導計画（５０分：３／５時限目）

・**活動名**：「第３の顔「共生」になるために～つながる力を高める～」
・**本時のめあて**：コロナ禍だからこそ誰かとつながる意味を考え、共生の大切さに気付く。

	活動内容（・想定される生徒の反応）	◎留意点　★評価	スライド
気付く	①　既習「３つのサイクル」を振り返り、本時の段階を確認する。	◎３つの感染症と新しい顔がどうつながっているのか意識させる。	３～５
深める	②　自分が独りぼっちの場合どうするか考えよう（シートによる個人作業⇒指名発表） ・身近な誰かに相談する	★自分に重ねて具体的に考えている（シート）	１２
	③　見かけなくなった地域のおばあさんについて考えよう（シートによる個人作業⇒指名発表） 【原因】 ・人と会うのが怖い（感染） ・心配してくれる人が身近にいない	◎教員が発表内容を模造紙にまとめていき、原因ウェビング図を作り視覚共有化する。 ★つながりたくてもつながれない人の立場を考えている（シート）	１６
伝え合う	④　【主発問】地域のおばあさんとつながる工夫とその効果を考え、伝え合おう （１）　シートによる個人作業 （２）　小グループでの伝え合い （３）　全体発表 【工夫】 ・身近な高齢者に手紙を書く、オンラインを教える、役所に相談する 【効果】 ・心が通じて安心する、もしもの時皆で助けられる、自分も元気になれる ⑤　その他地域で心配な人を皆で挙げる	◎上記の原因を念頭に置いて、現実的かつ具体的に工夫が考えられるよう助言する。 ★積極的に伝え合い、友達の考えを認めようとしている（伝え合い活動）	１６
まとめる	⑥教師が「コロナ禍でもつながった人の手記」を紹介し、本時の感想を書く ・つながりの大切さ ・自分ができること ※児童の感想の中で「支え合い」に言及する意見があったら紹介し、次時につなげる（教師から極力提示しない）	◎上記活動で考えた「効果」が「つながる意義」であることを押さえる。 ◎当事者の手記を紹介することで、自分たちの考えにリアリティを持たせ、「つながる」大切さを再確認させる。	１１

公式ホームページ

公式ツイッター

公式フェイスブック

公式インスタグラム

令和３年度　福祉学習の手引き

発行日：令和３年４月
編集・発行：社会福祉法人　寝屋川市社会福祉協議会
住所：寝屋川市池田西町 24-5
市立池の里市民交流センター内
電話：072-838-0400
ファックス：072-838-0166